

第2章 河川施設等見学会

(1) 概要

- ・日時：平成20年2月13日(水)
- ・視察場所：首都圏外郭放水路
埼玉スタジアム2002
- ・目的：埼玉県東部地域における治水の要となっている首都圏外郭放水路及び日本1のサッカー専用施設(埼玉スタジアム2002)の視察並びに綾瀬川の調節池と一体的に整備しているみそのウイングシティ(浦和東部・岩槻南部開発)及び綾瀬川の河川事業を学ぶ。
- ・視察行程：大宮シーノビル前 龍Q館(首都圏外郭放水路) 埼玉スタジアム2002 大宮駅東口

平成19年度2回目の見学会は、県内で治水整備が重点的に行われている県東部方面の治水施設及び治水に関連する都市施設で行なわれた。関東地方特有の寒い北風の日であったが、近藤顧問をはじめ49名の会員が参加し、盛大にかつ意義のある見学会となった。

一行は9時にソニックシティ西側の鐘塚公園に集合し、秩父鉄道観光バス(株)の大型バスで県道さいたま春日部線から国道16号経由で春日部市庄和の龍Q館に向かった。途中小林会長から挨拶と今年度調査の「川と水にかかわる祭」についての説明があり、続いて岡部幹事から行程説明が行われた。

(2) 龍Q館(首都圏外郭放水路庄和排水機場)

途中さしたる渋滞もなく、国道16号沿いの第5立坑(大落古利根川)、第4立坑(幸松川)、第3立坑(倉松川・中川)、第2立坑(18号水路)を左に眺めながら1時間程で首都圏外郭放水路のインフォメーション施設の「龍Q館」に到着。

江戸川河川事務所の阿部副所長、植松支所長、田中広報担当諸氏の案内で2階フロアに向かい、説明を受ける。



鐘塚公園に集合



バスに乗り込んで出発



龍Q館内での説明

放水路は地下 50m 大深度、トンネル内径 10.6m という大口径、第 3 立坑の倉松川・中川の洪水 125m³/s を受けるための渦流式ドロップシャフト、東京ドームと同じ面積を持つ調圧水槽、排水ポンプはボーイング社のジェットエンジンを改良したガスタービン 50m³/s を 4 台設置。驚くばかり。

平成 14 年 6 月から一部運用を行い、平成 16 年の台風 22 号では著しい浸水被害の軽減が図れたとのことである。



調圧水槽への階段入り口

次に 116 段の階段を下りて調圧水槽探検。東京ドームと同じ面積・サンシャイン 60 ビルと同じボリュームを持つ調圧水槽は地下からの浮力を押さえる柱の大きさと高さから、あたかも屋根つきギリシャ神殿のような景観を示している。今まで治水に弱かった県東部地域の治水の要として住民に愛し続けられることを祈りながら龍 Q 館を後にした。

(3) 埼玉スタジアム 2002

晴れて風が強かったせいか、車中雪をかぶった富士山がくっきり見えた。12 時を少し回ったころ埼玉スタジアム 2002 に到着する。会議室で昼食を摂る。



ラウンジ(スタッフ・家族はここまで)

午後 1 時 10 分からスタジアムツアーを開始。公園緑地協会の柿間事業推進本部長から埼玉スタジアムの新たな取り組みとして、浦和レッズのサポーターによる花壇整備、電力節約型ライトアップ、ジャズ演奏や大道芸などが行われていることについての紹介の後、同氏の案内でスタジアムの施設見学を行う。

普段は絶対に入ることのできない選手着替え室や貴賓室など貴重な体験ができた。



ホーム側着替え室



ウォーミングアップ室



フラッシュインタビュールー



トルシエ階段(トルシエのサイン)



貴賓席からピッチをのぞむ

(4) みそのウイングシティ(浦和東部・岩槻南部開発)

スタジアム 2002 施設体験の後会議室に戻り、都市再生機構の埼玉地域支社ニュータウン業務部工事チームマネージャーの平賀氏から、みそのウイングシティについて説明を受ける。

都市再生機構では、浦和東部・岩槻南部開発約 316ha(4 地区、計画人口 32,000 人)の内約 257ha(2 地区、計画人口 25,700 人)の区画整理事業を、平成 25 年度完了を目途に行っている。



都市再生機構平賀氏の説明

(5) 綾瀬川の河川事業

その後、総合治水事務所工務担当課長の野川氏から綾瀬川の河川事業の説明を受ける。大雨による浸水被害を受けやすい中川・綾瀬川の地形的特長や浦和東部・岩槻南部開発の開発調整池と一体に事業展開している 3 つの調節池(計画容量約 115 万 m^3)の工事の状況や進捗状況について説明を受けた。

講習会終了後、朝掘河川砂防課長と池田総合治水事務所長の挨拶を受けた。



総合治水事務所野川氏の説明



朝掘河川砂防課長



池田総合治水事務所長



スタジアム 2002 のホーム側選手入り口に設置してある表彰台で参加者全員の記念撮影

帰りの車中、尾崎副会長による参加いただいた会員の皆様へのお礼の挨拶があり、バスは 16 時ごろ大宮駅東口に到着し、平成 19 年度第 2 回の現地視察は会員の知識向上と相互の親睦にとって意義有るものとして終了した。

